

TOEIC® 受験体験記

英語教育センター参与 安藤公仁

はじめに

2016/09/25, TOEIC® Listening & Reading を受験した。今更との思いも無くはなかったが、常々、英語教育センターで、学生に英検や TOEIC® の受験を勧奨し、また、非常勤講師として実際に関連の講座も担当しているので、自分自身も受験して、firsthand experience によるアドバイスを学生たちに提供し、少しでも彼女たちの得点アップに貢献しようと思ったからである。しかしながら、英語関連の「受験」というのも留学時代から数えて 30 年ぶり、また、受験することを学生たちに公表していたこともあり、800 点とか 850 点あたりの得点で恥をかくのではないかというプレッシャーもかなりあった。結果は Listening 485 Reading 470 Total 955、教員として、何とか面目を保てたというところだろうか。

成績について少し詳しく触れると、Reading は問題量が多く、時間不足で得点は低かったが Percentile Rank は 98、一方 Listening については、得点は少し上だが、同 96 であり、Listening の方が高得点取得者が多いという結果だった。また、受験者として嬉しく思ったことは、Abilities Measured (項目別正答率) で、語彙が 100% だったこと、内心忸怩たる思いをしたのは、文法が 89% だったことである。「TOEIC® 受験体験記」と題した本稿では、まず、自身の TOEIC® 初体験を振り返り、事前の準備と試験中の留意事項について述べ、次に、4 回生からの就職活動に向けて、初めて TOEIC® に挑戦する 1 回生 2 回生へのアドバイスをまとめてみたい。

1. 受験対策

1-1. 準備期間と問題集

試験日が 9 月 25 日、準備期間は大学の春学期終了後の 8 月 9 月の 2 ヶ月。問題集・参考書は、「公式」と表示されている、財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会発行の「新公式問題集」Vol. 1 ～ 6、「TOEIC® テスト公

式問題集 新形式問題対応編」に加えて、ロバート・ヒルキ著の「頂上制覇 TOEIC® テスト究極の技術」Book 1～4（研究社）の計 11 冊を使用し、合計 18 回分の問題を解答した。

I-2. 時間配分

頂上制覇シリーズには、「Robert's Rule」と称して、解答する際の Tips & Techniques がパート別に解説されているが、これらのルールのをすべてを熟読・遵守することはせず、「Part 5 の 40 問を 13 分～15 分、Part 6 の 12 問を 6～7 分以内に解き終えて、Part 7 に 53～55 分は残さなければならない」(Robert, 2013, Book 4, p. 17) という時間配分のみルールに従った。新形式問題では問題数が改定されているので調整が必要である。時間配分とは別に全パートに渡り細々と述べられているテクニックについては、ある程度の量の問題を解答すれば、実践的に理解でき、自然に身に付くものなので特に参考にしなかった。ただし、500～700 点をを目指す学習者にとって重要な事項については後にまとめた。

I-3. 学習のペース

学習ペースとしては、Part 1～7 の問題を、通して解答することはせず、「Part 1・2」「Part 3」「Part 4」「Part 5・6」「Part 7」の括りで解答した。TOEIC® テストでは集中力の維持がとりわけ重要とされているので、できればリスニングパートは通して解答するのが良いのかも知れないし、リーディングパートについても 75 分通しでやるのが良いという考え方もあると思うが、野球やバレーボールの練習と同様に、練習段階では集中力を保つことが容易な分量に問題を分割して解答するほうが各パートの解答のコツについても学習効果が高いと思う。いずれにせよ、自分が集中力を持続できる範囲を見極めることが大切であるが、少なくとも各パートの途中で解答を中断するようでは効果的な練習にはならない。

II. 試験中の留意事項

II-1. リスニング・パートの息抜き

TOEIC® テストは試験時間が長く、問題数が非常に多いので集中力の持続と時間配分が試験中の一番大切な留意事項となる。Listening パートについ

ては Part 1 ～ 4 まで、45 分間、問題が読み上げられて行くので、時間配分の心配はなく、次々と解答して行くのみであるが、問題に対する集中力を維持するためには、問題以外のところでタイミングよく息を抜くことが大切である。たとえば、Part 1 では、設問番号から始まる Direction が 4 ～ 5 秒、設問と設問の間が 5 ～ 6 秒、1 つの設問が終わり、ページが変わる時は “go on to the next page” という direction と次の問題の direction が終わるまでに約 15 秒のポーズがある。息を抜く絶好の機会である。また、明らかに選択肢の A や B が正解と分かるときは、残りの選択肢が読まれている間も息抜きタイミングとなる。このような息抜きタイミングは Part 2 ～ 4 にもあるので有効に使いたい。リスニング・パートでは絶対に過去を振り返らず、軽く息を吐くことによって、45 分間、言わば副交感神経を優位にしておくのである。

II-2. 難問トラップ

TOEIC® テストは「累進的テスト」(Robert, 2013, Book 4, p. 18) と言われているように、各パートの問題が先へ行くほど難しくなっていることに留意することも大切である。特に、Part 7 ではこの傾向に注意を払うべきである。Part 7 は single passage を扱う問題と double passage を扱う問題があるが、最難問は single passage の最後の 3 分の 1、約 10 設問である。double passage についても最初の 3 分の 1 が簡単で徐々に難易度が上がる。したがって、難問部分に時間をかけすぎるとは避けなければならない。今回受験したのは triple passage が追加された新形式問題なので、どの部分に時間を使いすぎたのか明確には記憶していないが、最後に問題を見直す時間を取ることはできなかった。Part 7 については、解答のコツをつかむテクニックも大事だが、やはり、問題演習を何度も何度も繰り返し、求める情報を得るための速読力を高めることが正攻法ではないだろうか。

II-3. マークシートの位置とシャープペンシル

パニックにならず、時間を節約しながら平常心で解答を続けるために、試験中に実践したことを、瑣末なことと思われるかもしれないが、更に 2 点述べておきたい。まず、中 (2012, p. 56) から学んだ、「問題用紙とマークシートの取り扱い方」である。

問題用紙から解答用紙へと視線を移しているとズレが生じ、現在解いている問題や解答欄を探すことになってしまうことが度々あります。右利きの私は、山折した問題用紙を右に解答用紙を左に置き、マークするときに右手を左手に近づけます。左手の人差し指は解答用紙の現在解いている問題番号を指し、そして右手のシャーペンの先は現在解いている問題の上にくるようにするのがポイントです。このやり方で試験中にパニックになることはありません。

2点目は、必ずマークシート用のシャープ・ペンシルを使用することです。通常我々が使っているのは0.5ミリの芯の入ったものですが、これでは1つのマークを塗りつぶすのに数回シャープ・ペンシルの先を往復させることになります。練習中も本番も使用した筆記具は、1.3ミリの芯が入っており、1往復で確実に塗りつぶせます。シャープ・ペンシルの持ち方も、目印を決めておき、そこが常に上か下になるように持つことにより線の太さをキープします。些細なことのように思えるかもしれませんが、TOEIC®テストでは200問のマークをしますので、かなり時間の節約になるはずです。

III. 500 ～ 700 点をを目指す学習者へのアドバイス

III-1. テクニックに頼るな！

TOEIC®用の参考書・問題集は、総合的な対策、語彙、文法などの分野別、目標得点別など数多く出版されているが、どの本にも必ずパート別の解法テクニックが掲載されている。前述のロバート・ヒルキ著の「頂上制覇 TOEIC®テスト究極の技術」Book 1～4（研究社）は990点満点を目指す受験者用の問題集であるが、そこにも、「Robert's Rule」と称して、各パート約10ページに渡り、様々な「技術」が詳細に述べられている。しかしながら、このようなテクニックは問題演習を数多くこなして行けば自然と身に付くもの、あるいは問題演習を通して身に付けるべきもので、初めにテクニックありきというような学習方法は勧められない。

III-2. 基礎的・基本的な語彙・文法力の獲得を優先せよ！

TOEIC®は英検2級レベルの語彙・文法力と時間さえあれば、必ず正解できる問題が大部分なので、このレベルの語彙・文法力未達成の受験者は、ま

ず基礎的・基本的な事項の理解を優先するべきである。そのためには、まず、英検 2 級や準 2 級に照準を当てた勉強も有効である。その上で同時進行的に TOEIC® 問題集に取り組み、解答・解説を熟読吟味、リスニング・パートでは繰り返し聴き、音読を繰り返すという地道な取り組みを続けるべきである。

III-3. ビジネス英語特有の語彙に気をつけよ！

TOEIC® テストの英文は日常会話、もしくは日常的なビジネス英語である。理屈っぽい英文や文学的な表現、難解な英文はほとんど皆無である。しかし、気をつけなくてはいけないのはビジネス英語特有の語彙である。例えば、account 顧客 得意先、business 会社 商社 店舗、logistics 事業計画 物資の総合管理、outstanding 懸案の 未払いの、proceeds 売上高 利益、というような単語である。これらの単語の意味は辞書の第一義からは即座に連想しにくい、が、TOEIC® では頻出単語である。TOEIC® 用の単語集で暗記するのも悪くはないが、問題演習を数多くこなす中で、例文とともにそのような語彙に慣れて行くのが実践的である。

また、TOEIC® には発音が難しい個人名や会社名がしばしば出てくるが、決してどう読むのだろうと悩んだりしてはいけない。そのような固有名詞はすべてイニシャルで読む習慣をつけておくと良い。

III-4. 解答テクニックの Minimum Essentials

III-1 で「テクニックに頼るな！」と書いたが、500 ～ 700 点を目指している受験者が知っておくべきテクニックは確かにある。解答時間の節約にもなるので、問題演習をしながら「Robert's Rule」などのテクニック集をひと通り読んで、なるほどと思うものを参考にするのが良い。ここでは、「Robert's Rule」を参考に、各パート別の留意事項を簡単にまとめておきたい。

① Part 1

- ・進行形の受動態「～されているところだ」に注意し、その動作が現在進行しているかどうかを判断する。
- ・写真の一部分だけを描写した英文が正解の時もある。
- ・人か風景か乗り物かなど被写体別のテクニックにはこだわらない。
- ・opposite, adjacent, haphazardly など位置関係を表す語句に注意。

② Part 2

- ・問題文頭の 5W1H を絶対に聞き逃さない。
- ・5W1H で始まる文への応答で Yes/No は不正解。
- ・よく似ている発音の単語が含まれている選択肢は不正解。
- ・Yes/No と答えるのと内容的に同じ応答文が正解の場合が多い。

③ Part 3&4

- ・会話やトークを聞きながら解答し、設問が読まれている時は次の問題の設問に目を通す。
- ・Part 3 で「男（女）の人は次に何をするでしょうか？」という設問の答えは男（女）の人の発言の中に正解がある。
- ・会話やトークの内容が理解できるまで繰り返し聴き、音読するのが正攻法。

④ Part 5&6

- ・時間さえあれば基礎的・基本的な文法事項の知識で解答できる問題である。
- ・時間をかけすぎず、即決して次々と解答していく。
- ・過去分詞の形容詞用法に注意し、主語と動詞を見極める。
- ・品詞を選ぶ問題は語尾の変化に注意する。

⑤ Part 7

- ・まずどのような文書か見極めて設問に目を通す。
- ・設問の番号順に正解となる情報を探しながら本文を読み進む。
- ・文書⇒設問⇒文書の順で、英文を通して2回読んでは時間が足りない。
- ・常に即決して次々と解答していく。

「テクニックに頼るな!」と言いつつ、結構、テクニックに触れてきたが、詰まるところ、TOEIC® で得点を稼ぐには、基礎的・基本的な文法事項を理解し、ビジネス英語特有の語彙をつけ、即断即決できる速読力が重要となる。そのために最も確実な対策は解答時間を管理しながら、より多くの問題演習をこなして行くことである。

おわりに

2015 年度の TOEIC® 受験者数は 277.9 万人、一方、英検は 322.5 万人。数字は拮抗しているが、受験者の内訳を見ると、英検は受験者の 85% が中高

生で、大学生・社会人は TOEIC® 受験という住み分けもできているようである。大学生の就職活動では多くの企業が TOEIC® 600 点や 700 点を標準装備として求めたり、企業の昇任、転勤人事の基準に TOEIC® の得点が入り入れられたりと、TOEIC® 受験者数は今後も増え続ける様相である。

受験者が増え続ける理由はこれだけではない。英検が合格か不合格であるのに対し、TOEIC® は何点取ったかという数値が問題なので、どのレベルの受験者も 50 点 up, 100 点 up と細かく目標設定ができるところが受験者の挑戦意欲を掻き立てるのである。「TOEIC® 満点取得者」なる「肩書」も登場し、英検 1 級や準 1 級合格者も 990 点満点を目標にすれば、挑戦し続けることができるというわけである。

しかしながら、将来の就職活動のために TOEIC® を初めて受験する、英検 2 級レベルの学生は、受験結果の数値に一喜一憂することなく、「英語を使う」を常に意識し、音読・シャドーイングなどの基礎訓練に加えて、ネイティブ・スピーカーの授業はもとより、英語教育センターでのネイティブ・スピーカーとの自由会話、スカイプを活用した英会話など、あらゆる機会を活用し、英語の運用能力を高めてもらいたい。

[参考文献]

- 中 郁子「TOEIC® テスト受験のためのサクセスガイド: Tips and Techniques」,
『Shoin ELTC Forum』, No. 1, p. 56, (2012)
ロバート・ヒルキ「頂上制覇 TOEIC® テスト究極の技術」, Book 4, p. 17 (研究社 2013)